

横河レンタ・リース(東京都新宿区、山崎正晴社長)には「秘密の花園」がある。女性社員同士がキャリア形成やライフワークバランスについて理解し合う研修・意見交換の会。女性営業職が少なかった時代に同じ立場で相談し合おうと発足し、2004年から活動を続ける。そこから上がる意見がくみ取られて女性が働きやすい環境の整備が進み、女性社員は増え管理職登用が進む。会の発起人の内田陽子さんは現在、執行役員に就いている。

(長野光博)

会の発足当時、女性の外勤営業職はわずかな人数だった。キャリア形成のロールモデルもなく、自助グループとしてスタートした。会の正式な名前は「たけのこの会」。そうした中で、竹のようにすくすくとしなやかに成長するようにと思いを込めた。

参加は女性だけで、人事を管掌する川中定専務執行役員も「私を含め男性社員は足を踏み入れたことがない」。ゆえに「秘密の花園」。同社の事業はOA機器・パソコン、計測器のレンタル・リース。これらの調達から運用、

多様性を育む

リセール、廃棄までを管理し、その間システム構築やセキュリティなど、綿密な顧客対応を行う。04年当時、男性が主だった外勤営業職に総合職の女性が

横河レンタ・リース

秘密の花園 女性輝かす

キャリア・働き方柔軟に

業職に総合職の女性が入ってきて、たけのこの会が発足した。06年からは社が認める活動として毎年、会で研修を行うようになった。「女性の健康、コミュニケーション、キャリアデザインなど毎年、自らがテーマを決めて行う」と人事総務部人事一課の辰巳彩夏さん。自身も営業職経験者だ。13年には一般職を総合職に転換。たけのこの会の対象者も増えている(辰巳さん)。16年に女性活躍推進法が施行され、働き方の制度整備が加速し、たけのこの会の活動が反映されている。現在、女性社員の比率は約4割となり、係長クラスの男女比は5対5となった。たけのこの会の研修も、このところは「テーマは女性に限ったものではなく、柔軟に取れるようになってきた」(辰巳さん)。小説『秘密の花園』は、少女が友情を育み春に花を咲かせた物語。横河レンタ・リースの花園は、社全体に広がる気配だ。

経済産業省の調査では、女性の健康課題による経済損失は年間3.4兆円に上る。女性活躍の環境整備はまだ必要。その上で社全体が、一段高いステージに上がるため、さらに多様な取り組みが期待される。

ポイント



「秘密の花園」と呼ばれる女性だけの会。昨年12月の研修には女性社員48人が参加



女性だけの交流会で、互いの気持ち近づくと